

2017年5月30日

愛媛 秋田 紘紀

「陸（おか）に上がったカッパ」

今回、2度目のエッセイを指名頂きましたが、活動は素より、これといった特技もなく話題もなく、大変恐縮いたしております。

先般、喜寿のお祝い金を頂き大変有難うございました。喜寿とか後期高齢者と言われても、まったく他人事位にしか思っていなかったのですが、個人差はありますが、寄る年波には敵いません。

68歳後半に体調を崩し、一番の趣味で有ったマリレジャーにも医師の指摘で、足を洗い、レジャーボートも手放すことになりました。又、家内や親族と年2回は行っておりました国内外の旅行も叶わぬ夢となりました。

今の私に何ができるのか、残された人生に課せられたことは、今まで気にせず過ごしていた事に気付き70歳の手習いと言いましょか、先祖代々からの古美術品整理、手入れ知識の取得に高校の恩師、愛媛県立美術館、歴史博物館の両学芸員の方々の指導を受け身に付けている次第です。



脇差（備州長船則光作）応仁元年12月(1467年)

両館から寄贈の要望も有り掛け軸を5点寄贈し、他にも多々要望もあり時をみて寄贈の予定です。内訳は、屏風、掛け軸、古文書、工芸品です。所詮持っていけるものでもなし、古物商に売却したのでは先祖の遺志に反します。両館に寄贈し管理、保管を願い、多くの人々の、お役に立てば幸いです。



屏風



大皿

無知の世界からの私には「陸（丘）に上がったカップ」で大変苦心しているところです。

これからは梅雨の季節になりますので、脇差の油びきなどの手入れ、掛け軸のメンテナンスなど手間のかかる事が待ち受けています。

知識のない者には大変ですが、年代を重ねたものだけに管理に、知識の取得により多く得たいと考えております。

以上

※ 2005年（平成17年）にリレーエッセイ第12号 “マリンレジャー20年” として投稿をいただいています。